

J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



桜咲く4月。身も心もうきうきする季節です。おかげさまで、J-DAVID試験の登録症例数が500症例を突破しました。まだまだ遠い道のりですが「サクサク」を目指して、これからも頑張ります。応援よろしくお願いたします。

世話人からのメッセージ

「FGF-23の上昇は何を意味するのか。」

昭和大学医学部内科学講座腎臓内科学部門 教授
秋澤 忠男 先生

JDAVID試験は日本を代表するESRD患者への介入試験として世界の注目を集めています。ビタミンDの欠乏は一般住民から腎機能に大きな障害のないCVD患者、保存期CKD、導入期、さらには維持透析患者で予後不良を予知する因子であり、保存期・透析期CKD患者ではビタミンDの補充が患者予後の改善と関連するという観察試験の結果は、JDAVID試験の成功を裏付ける所見です。

最近FGF-23がCKD患者予後と関連する、と多数の報告がなされています。透析患者の生命予後だけでなく、保存期患者では腎予後も予知し、FGF-23のレベルは異所性血管石灰化と関連し、さらにはLVMIを増加させる要因でもあるとされます。もちろんFGF-23は血清リンやPTHとも関連しますが、これらで補正しても予後と関連し、血清リンよりもずっと鋭敏な予知因子とされます。FGF-23というCKD-MBD分野の新顔が御本尊のリンよりも注目されるという新

たな事態を迎えているようです。とはいえ、FGF-23にリンのように血管石灰化を直接誘導する作用が証明されているわけではありません。骨から分泌されるFGF-23と骨病変の関連は強く予測されても、その

直接的骨障害作用が同定されたわけでもありません。FGF-23が老化と関連するKlothoと受容体を共にするという興味深い事実があっても、FGF-23が本当の悪者なのか、重要なサロゲートマーカーに過ぎないのかの鑑別はまだ明らかではありません。

FGF-23はビタミンDの活性化を阻害してビタミンD欠乏を促進しますので、これはビタミンD欠乏は悪、との仮説に好都合です。しかし一方で、ビタミンDの補充はFGF-23の産生を促進することが知られています。JDAVIDにおけるビタミンD補充がFGF-23の上昇を介してネガティブに作用するのか、FGF-23が上昇しても良き臨床的転帰をもたらすのか、興味は尽きません。



最近の文献から

透析患者におけるビタミンD欠乏を同定するための臨床的指標

Clinical Measures Identify Vitamin D Deficiency in Dialysis

Bhan I, et al. CJASN 5: 460-467, 2010

【ポイント】 ArMORR研究における透析導入患者10,044例において、ビタミンD欠乏（血清25(OH)D<30 ng/mL）は79%で認められ、黒人、女性、冬季、低アルブミン血症が予測因子であった。

詳しくは http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?cmd=Retrieve&db=PubMed&dopt=Citation&list_uids=20185603

学童に対するビタミンD補充で季節型インフルエンザ予防効果をみた無作為化試験

Randomized trial of vitamin D supplementation to prevent seasonal influenza A in schoolchildren

Urashima M, et al. Am J Clin Nutr (E-pub)

【ポイント】 530人の学童におけるプラセボ対照の二重盲検試験において、冬季にビタミンD(1200 IU/day)の補充を行うことで、A型インフルエンザ発症リスクが42%低下し、喘息既往学童の喘息発作リスクは83%低下した。

詳しくは http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?cmd=Retrieve&db=PubMed&dopt=Citation&list_uids=20219962

最新進捗状況

累計登録数のランキング・進捗状況等を報告致します。(3月23日現在)

各地区登録進捗

地区	施設数	累計登録数	今月登録数
北海道	8	72	0
山形	3	6	0
宮城	5	2	0
東京	29	38	15
栃木	1	0	0
茨城・千葉	16	0	0
神奈川	2	12	0
愛知	17	7	2
大阪	49	205	6
奈良・和歌山	12	38	11
京都	4	64	5
広島	5	18	0
島根	8	5	2
徳島	2	5	5
高知	3	5	0
愛媛	1	18	0
福岡・佐賀	11	5	0
沖縄	6	4	1
合計	182	504	47

累計登録数ランキングTOP10

順位	施設名	登録件数
①	井上病院／大阪	55
②	桃仁会病院／京都	47
③	北彩都病院／北海道	28
④	翠悠会診療所／奈良・和歌山	27
⑤	永山クリニック／大阪	25
⑥	札幌北楡病院／北海道	20
⑦	佐藤循環器科内科／愛媛	18
⑧	大野記念病院／大阪	15
⑨	小野内科／大阪	14
⑩	大町土谷クリニック／広島	14

3月度登録数ランキングTOP5

順位	施設名	登録件数
①	熊野路クリニック／奈良・和歌山	11
②	川島病院／徳島	5
③	馬淵診療所／京都	5
④	武蔵野赤十字病院 腎臓内科／東京	4
⑤	門真クリニックあいわ診療所／大阪	3
⑥	品川腎クリニック／東京	3
⑦	豊洲腎クリニック／東京	3

クエリー回収状況報告

	観察開始時	3ヵ月	6ヵ月	12ヵ月
発行件数	309	126	52	9
回答受領件数	255	96	35	7

症例報告書回収状況報告

登録	観察開始時	3ヵ月	6ヵ月	12ヵ月
504	363	168	127	53

J-DAVID事務局からお知らせ



共同研究費のご請求について

・2008、2009年度の共同研究費請求の受付は2月末をもちまして終了させて頂きました。お忙しい中、ご協力頂き有難うございました。共同研究費の受取りをご確認いただき次第、同封の領収書に捺印の上、事務局にご返送ください。2010年(1月～12月)のご請求に関しましては、12月末発行のJ-DAVID Newsと共に請求用紙をお送り致しますので、そちらをご使用頂きますよう宜しくお願い申し上げます。ご不明な点がございましたら、事務局にお問い合わせください。



編集・発行：J-DAVID研究会事務局
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分沁病態内科学 内
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808
データセンター
電話・FAX 06-6646-3105

ホームページもご覧下さい。
<http://j-david.info/>